

# フィジカルAIが拓く新たな巨大市場

## 次世代AI株式戦略ファンド

追加型投信/内外/株式

- 平素は『次世代AI株式戦略ファンド』(以下、当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本レポートでは、当ファンドの運用状況についてご紹介します。

### 足元の投資環境

8月の世界株式市場は、地政学的緊張や原油価格の上昇、金利上昇観測が重石となる一方、底堅い企業業績やAI投資需要への期待を背景に上昇しました。特にテクノロジー関連株が堅調に推移し、MSCI ACWI情報技術指数は5.9%上昇しました。

AI関連分野では、これまで相場をけん引してきたAIインフラに加え、ソフトウェア分野にも上昇の裾野が広がりました。MSCI ACWI半導体・半導体製造装置指数が3.9%上昇した一方、ソフトウェア・サービス指数は13.6%上昇しました。企業によるAI製品の導入が進み、一部のソフトウェア企業ではAI関連サービスが業績改善につながりました。

また、主要半導体企業の決算や業績見通しからはAI向け半導体への旺盛な需要が引き続き確認されており、関連サプライチェーン全体を支える要因となっています。

図表1 世界株式指数とS&P500種指数の推移

(期間:2025/6/9(設定日)~2026/9/16、日次)



### 当ファンドの運用状況

8月の基準価額は7.8%上昇しました。当月はAIインフラに加え、AIを活用した製品やサービスで成長が期待されるAIイノベーターにも上昇が広がり、両分野の銘柄がパフォーマンスに寄与しました。

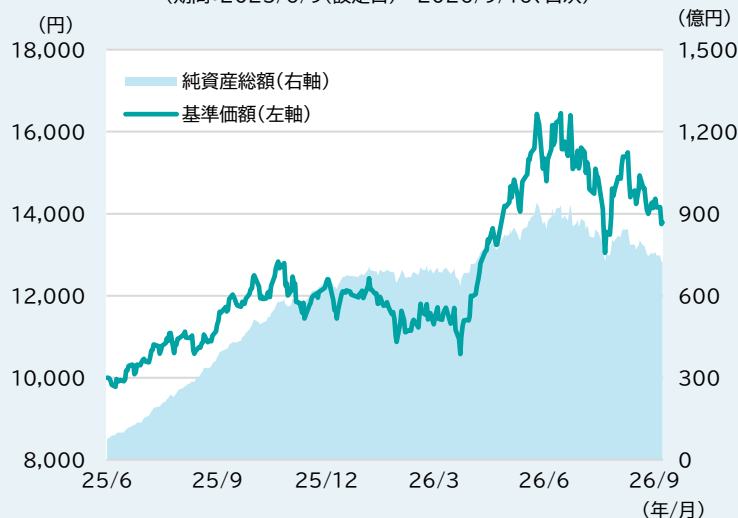
インフラ関連では、データセンター向け光通信需要の拡大を背景に、光通信関連企業が堅調に推移しました。決算では売上高や利益率が想定を上回る進捗が示されたほか、データセンター内の配線網にも光技術の採用が広がり始める兆候が確認されました。

イノベーター関連では、企業によるAIの実用化・収益化の進展が株価を押し上げました。企業向けAIサービスの導入拡大やソフトウェア開発の活発化を背景に、関連企業の成長期待が高まりました。

一方、競争環境の変化や業績が市場予想を下回った企業はマイナスに影響しました。ポートフォリオでは、AIサービスやクラウド事業の成長が続くマイクロソフト社の保有比率を引き上げました。

図表2 当ファンドの基準価額と純資産総額の推移

(期間:2025/6/9(設定日)~2026/9/16、日次)



## NEXT GENERATION

## フィジカルAIの成長を取り込む次世代AIという視点

### AIの活躍領域が現実世界へ

フィジカルAIは、AIの活躍の場を現実世界へ広げる成長テーマです。自動運転やロボティクス、製造、物流など幅広い分野で活用が期待されています。

また、生成AIやエージェントAIとの連携によって、フィジカルAIのより高度な活用が進むと考えられます。そのため、フィジカルAIだけでなく関連するAI技術も含めて次世代AIを面で捉えることが、幅広い投資機会の発掘につながると考えています。

図表3 次世代AIの活用が今後拡大するとみられる産業

## 活用範囲の広がる次世代AI

次世代AIが世界の産業地図を書き換える



(出所)BNPパリバ・アセットマネジメント

### ロボットが「コーヒーの淹れ方」を見て覚える

2026年9月、Skild AIは新しいロボット基盤モデル「S1」を発表しました。このモデルは、人の作業を1本の動画で示すだけで、ロボットが意図や手順を理解し、未知のタスクを実行することを目指すものです。実験では、植木鉢への植え付けやパンケーキ作り、ハンドドリップコーヒーの淹れ方、部品の組み立てなど、複数の工程からなる作業を実行しました。

従来の産業用ロボットでは、新しい作業を習得させるために個別のプログラミングやデータ収集、追加学習などが必要でした。これに対してAIを搭載したロボットは動画から作業の目的や手順を推定し、状況の変化に対応して行動することを理解し始めています。生成AIやエージェントAIで進んできた「AIに教える方法そのものの変化」という考え方が、現実世界で動くロボットにも広がり始めているといえます。

Google DeepMindもGemini Roboticsを通じて、視覚情報や自然言語を理解し、計画を立てて複数の作業を実行するロボットの開発を進めています。こうした動きは、デジタル空間の情報処理と現実世界での行動を結び付けるフィジカルAIの可能性を示しています。

## NEXT GENERATION

## ■ フィジカルAIが伸びるほど、「AIの頭脳」も必要になる

フィジカルAIの普及が進めば、ロボットや自動運転などの市場拡大が期待されます。しかし、その裏側では現実世界を認識し、判断し、行動を計画するためのAI処理がこれまで以上に必要になります。

こうしたことから、フィジカルAIの成長は生成AIやエージェントAIの需要を代替するのではなく、むしろAI全体の活用範囲を広げる可能性があります。

フィジカルAIの拡大は、生成AIやエージェントAIに関する技術やサービスにとって成長機会になると考えられます。

図表4フィジカルAIの普及がAI需要を高める

## フィジカルAIが伸びるほど、必要になるAI処理



(出所)BNPパリバ・アセットマネジメント

## ■ だから、「次世代AI」という視点

フィジカルAIは有望な成長テーマですが、その成長機会を捉えるには、生成AI、エージェントAI、フィジカルAIを包括的に「次世代AI」として捉えることが重要だと考えています。

フィジカルAIの高度化は、AIモデルや半導体、通信などのインフラ需要を拡大させるとともに、生成AIやエージェントAIの進化を通じて新たなサービスや利用シーンの創出にもつながります。

私たちは、フィジカルAIそのもののだけでなく、それを支えるインフラ企業やイノベーター企業にも幅広い投資機会が存在すると考えています。

## NEXT GENERATION

## 今後の運用方針 - 拡大するAI市場を次世代AI株式戦略で捉える

「次世代AI株式戦略」は、生成AI、エージェントAI、フィジカルAIを含む次世代AI全体から成長企業を発掘することを目指しています。フィジカルAIの高度化が進めば、その恩恵を受ける企業の裾野も広がっていきます。私たちは、フィジカルAIを「点」ではなく、次世代AIという「面」で捉えます。それがフィジカルAIの成長をより広く、より長く取り込むための「次世代AI株式戦略」の視点です。フィジカルAIという新たな市場が加わり、AIの活躍領域がさらに広がっていく今、次世代AI市場全体を見据えて投資する重要性はこれまで以上に高まっていると考えています。

当ファンドでは、次世代AIを社会や産業の在り方を大きく変える「汎用技術」として位置付けており、今後も長期的な成長機会が続くと考えています。当ファンドは、今後数年間にわたるAIの成長の恩恵を取り込むよう構築されています。そして、市場環境に合わせて、次世代AIインフラと次世代AIイノベーターの双方に柔軟に投資することで、今後も次世代AI市場の成長を取り込んでまいります。次世代AI市場の発展にはインフラの進化が不可欠ですが、その価値を最終的に収益へと転換するのはイノベーター企業です。だからこそ私たちは、次世代AIの恩恵はインフラだけでなく、それにより収益化を実現する企業にも広がると考えており、両分野への投資を通じて中長期的な成長機会の獲得を目指します。

## 銘柄紹介

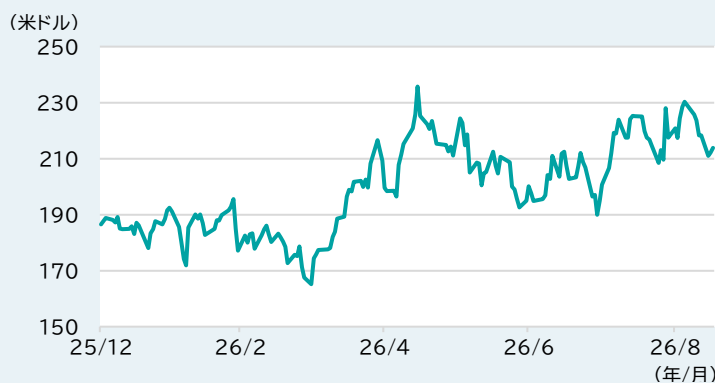
## ■ エヌビディア(米国・情報技術)

同社は、グラフィックス処理ユニット(GPU)を中心とする半導体に加え、AIの学習・推論からロボティクス、自動運転、シミュレーションまで幅広いAI向け計算基盤を提供する企業です。

フィジカルAIが高度化するほど、現実世界を認識し、予測し、判断するためのAI処理は増えていきます。同社は、生成AIだけでなく、エージェントAIやフィジカルAIなどへAIの用途が広がることで生まれる計算需要を幅広く取り込むことが期待される企業です。

図表5 エヌビディアの株価推移

(期間:2025/12/31~2026/9/16、日次)



(出所) Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

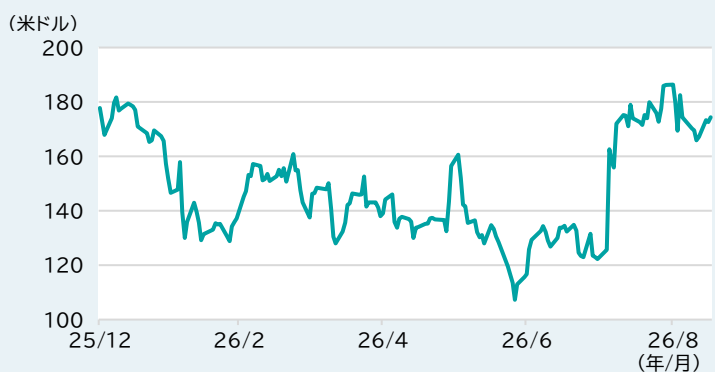
## ■ パランティア・テクノロジーズ(米国・情報技術)

同社は、企業や政府機関が保有する膨大なデータを統合・分析し、AIを意思決定や業務プロセスに活用するためのソフトウェアを提供する企業です。

AIの役割が情報生成から判断・実行へと広がる中、同社はエージェントAIの進化を支える企業として注目されています。フィジカルAIが現実世界で行動するためにも、状況を理解し適切な判断を行うAIが不可欠です。同社は、生成AIやフィジカルAIと連携しながら、AIによる意思決定を支える企業として成長が期待されています。

図表6 パランティア・テクノロジーズの株価推移

(期間:2025/12/31~2026/9/16、日次)



(出所) Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

# 販売会社一覧

2026年9月28日現在



受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。  
 なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

| 商号                  | 登録番号            | 加入協会    |                   |                         |                            |
|---------------------|-----------------|---------|-------------------|-------------------------|----------------------------|
|                     |                 | 日本証券業協会 | 一般社団法人<br>資産運用業協会 | 一般社団法人<br>金融先物<br>取引業協会 | 一般社団法人<br>第二種金融商品<br>取引業協会 |
| (金融商品取引業者)          |                 |         |                   |                         |                            |
| 岡三証券株式会社            | 関東財務局長(金商)第53号  | ○       | ○                 | ○                       | ○                          |
| 岡三にいがた証券株式会社        | 関東財務局長(金商)第169号 | ○       |                   |                         |                            |
| 岡三ビジネス&テクノロジー証券株式会社 | 関東財務局長(金商)第170号 | ○       | ○                 |                         |                            |
| 野畑証券株式会社            | 東海財務局長(金商)第18号  | ○       |                   |                         | ○                          |

|                 |                                      |                                                                                       |
|-----------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 委託会社<br>お問い合わせ先 | 電話番号<br>03-3516-1300(営業日の9:00~17:00) | ホームページ<br><a href="https://www.sbiokasan-am.co.jp">https://www.sbiokasan-am.co.jp</a> |
|-----------------|--------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------|

# 次世代AI株式戦略ファンドに関する留意事項



## 投資リスク

### 基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。

ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

### 留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリングオフ）の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要性が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がり率が小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消することがあります。

## お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料：購入金額（購入価額×購入口数）×上限3.3%（税抜3.0%）
  - 換金手数料：ありません。
  - 信託財産留保額：ありません。
  - 運用管理費用（信託報酬）：純資産総額×年率1.2925%（税抜1.175%）
  - 運用管理費用（信託報酬）の実質的な負担：純資産総額×年率1.826%（税抜1.66%）程度  
※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用（信託報酬）は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
  - その他費用・手数料：監査費用〔純資産総額×年率0.0132%（税抜0.012%）〕  
有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。（監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。）
- お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
- 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご参照ください。

### <本資料で使用しているインデックス>

- MSCI ACWI IndexはMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。



商号等：SBI岡三アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第370号  
加入協会：一般社団法人資産運用業協会

### <本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮していません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。